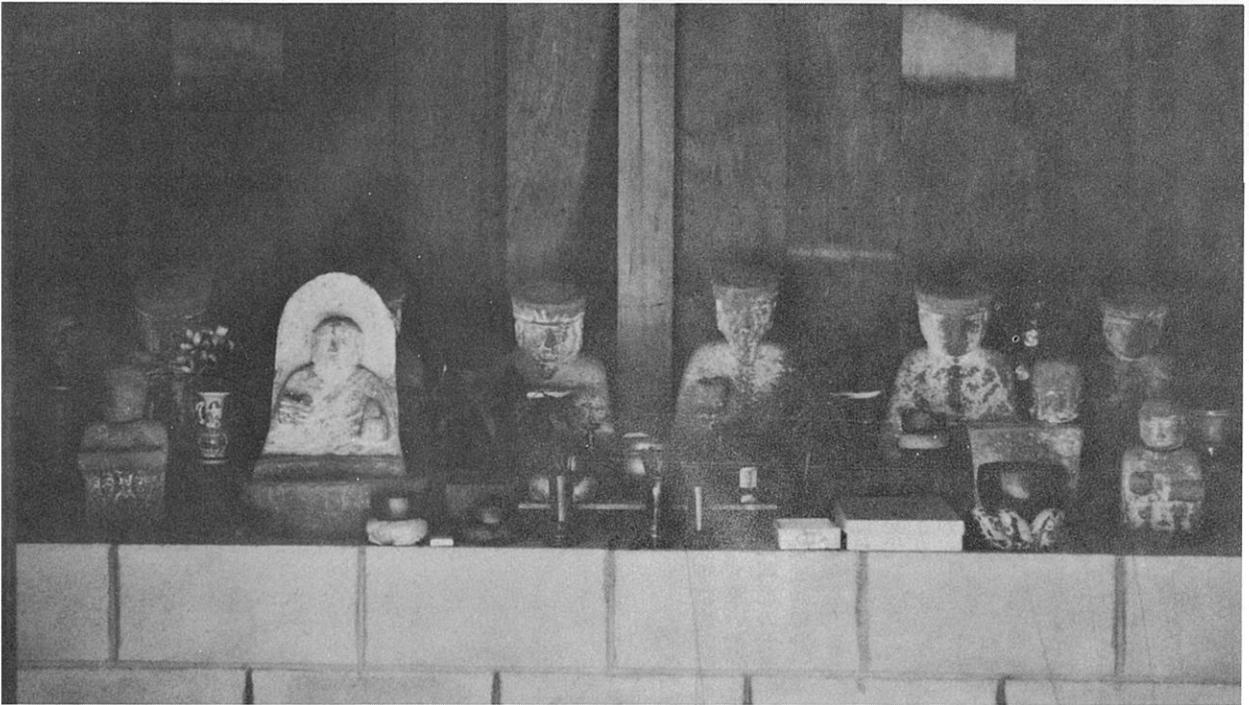


系 車

編集 山形村ふるさと伝承館



十王信仰

上大池宗福寺の十王堂には写真の様に十王信仰に基く一連の石仏十七体が安置されている。即ち十王像十体と地藏菩薩・奪衣婆・書記・獄卒・檀拏懂・浄玻璃鏡・天秤錘各一体である。

十王は冥土で順次亡者を裁くという秦広王・初江王・宋帝王・五官王・閻魔王・变成王・太山王・平等王・都市王・五道転輪王のことである。死後まだ次の生を受けるに至っていない、いわゆる中有の亡者は初七日に秦広王の庁に行き、以後順次二七日・三七日・四七日・五七日・六七日・七七日・百か日・一周年・三周年に各王府を過ぎて、娑婆での罪の裁断を受け、それによって来世の生所が地獄道・修羅道・餓鬼道・畜生道・人間界・天上界の六道のうち、どれかに定まるといふ。そして生前に予め十王に對し供養を行った者は、死後十王の裁きを受ける時、業報を軽くして貰えるというのが十王信仰である。

十王思想は中国の道教の影響を受けて成立し、平安時代の末頃、禪宗と共にわが国に伝来して来たといふ。

宗福寺の十王像は寛永十二年（一六三五）の銘があり、記事銘のある石仏では村で最も古く、十七体のセットが完全に揃っている十王像は全国でも珍しく、貴重な石仏である。

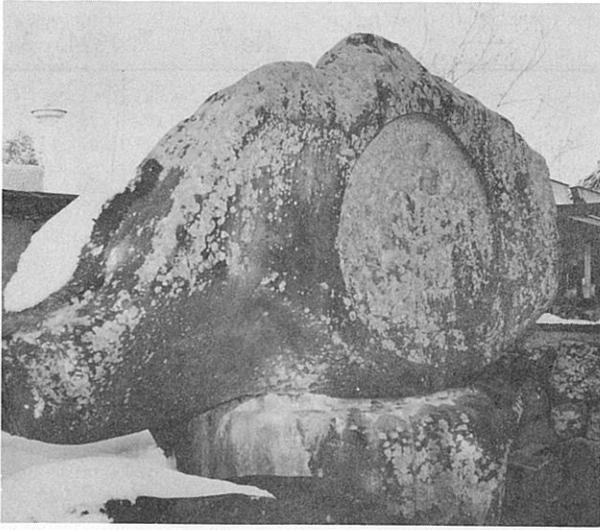
写真で見るふるさと 石仏信仰

下竹田の道祖神

「本州高遠住石工四良右門兼氏作」と、村で唯一つ、作者の名が刻み込まれている道祖神である。作者銘のある道祖神は県下でも数が少ない。それだけ自信に満ちた作だったのだろう。

道祖神信仰の源流が遠く四〜五千年前縄文中期の石棒から発し、陰陽石を信仰の対象とした「生殖信仰」に発達していることは各地に見られるが、村でも新田原地畔の「御魔羅様」や、小坂慈眼堂の「酒樽」道祖神の碑石が男根型をしているのにも見られる。

そういう角度から見ると、この道祖神もまたその石の形に豊かな子宝や、夫婦和合の祈りをこめたものと見えなくもない。



上竹田の秋葉大神

秋葉信仰の本山は神・仏共に静岡県周智郡春野町の秋葉山にあり、昔から各地に秋葉講が組織され、火伏せの神として厚い信仰を受けている。

大正三年、取灰が風で舞い下本郷・御判形の大半が焼ける大火があった。そこで翌四年五月造立されたのがこの秋葉大神の碑である。御判形・下本郷の全戸が集り、毎年五月の始めにお祭りをしている。大神碑の前にねこを敷き、皆でお参りをした後、各常会が一年交代で各自重詔を持ち寄り夕方まで酒盛りをする。

この大火の時、下本郷の唐沢同姓のお薬師様で火が止まったので、それ以後お薬師様を守ってくれたと伝えられ、また、そこにある北向きのお地藏様は何でも願いを叶えてくれるといわれ、近所はもとより遠くからも大勢の人がお参りに来る。それらの人たちがお地藏様に着せる腹がけや頭巾は幾重にもなるので、年々何回か取り替えられるという。

なお、村にはこの他に三基の秋葉碑があるが、何れも「秋葉大権現」と刻まれている。



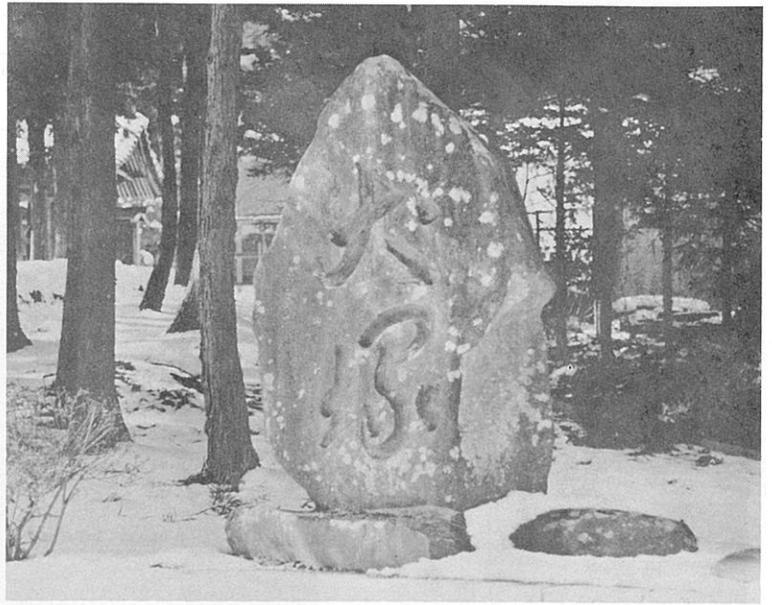
下大地の水神様

飲用水や灌漑用水を司る神や火災を防護する神など水に関する神を総称して水神というが神格は極めて多様である。水速姫命を祭ったこの水神

は昭和四年二月十七日に、中町の井戸仲間が共同井戸の傍らに造立したものである。水道が敷設されるまでは毎年二月十七日にお祭りをしていたが今は井戸も蓋をされ、お祭りも行われていない。

村にはこの他に三基の水神碑があるが、二基には一徳元水神、一基は龍澤水神と刻まれている。





左の写真の様に「馬塚」と刻まれた供養塔が下原地籍の道端にある。この辺は昔馬捨て場などと呼ばれ、死んだ馬を葬った場所であり、碑の裏面に次の様に刻んである。
此地従古昔斃馬埋没来也久矣、時元禄三年九月丁午真田伊豆守檢地依古例存之云

小坂村

この碑がいつ頃造立されたかは不明だが三百年以上も昔から葬られて来た馬の供養のために、小坂の人たちが建てたものである。

鳥獣供養塔の中でも馬のためのものが最も多く、村内にも軍馬碑や馬頭尊を加えると二七〇体もある。

小坂の鳥獣供養塔

私達人間が日常生活の中で各種の鳥獣類から受ける恩恵に対して感謝の意を表し、その犠牲となった鳥獣類の霊を慰めるために、昔から各種の供養塔が造立されている。

そうした中でも、小坂宝積寺の門前に立つ「犬塚」は珍しい。今から約八〇年前の大正四年六月、発起人・建設者・特別賛助員等六〇名余の人々によって建立されたもの

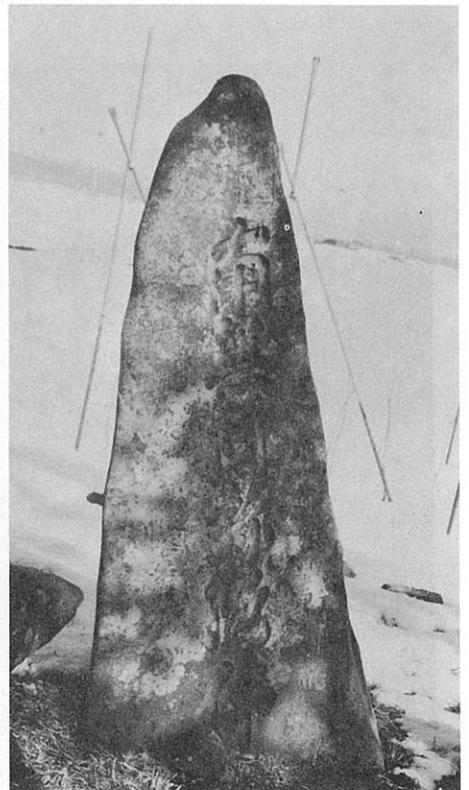
である。その裏面に「狂犬が各地にあらわれ、恐水病(狂犬病)にかかり、人命を失う者も少なくない。そのため官命で野犬や狂犬を撲殺することになったが、愛犬もまたその犠牲となったことは実に悲しむべきことである。そこで、愛犬家たちが相謀って碑を建て塚となし、その霊を祀ることにした」と、狂犬病のために愛犬を犠牲にした悲しみが、切々と刻まれている。

(原文は漢文)



中大池の等順公名号碑

「南無阿弥陀仏」の名号を唱えたと誰でも死後極楽に行



けるという浄土教の信仰は、鎌倉末期から宗派を越えて広がり、各地に念仏講が結成され、名号碑を造立する功德が説かれたので名高い碩徳の書になる名号碑が各地に造立される様になった。

その中で特に多いのが江戸時代の徳本上人と善光寺別当大勧進性谷等順大僧都のものである。民間信仰研究家の宮島潤子女士の調査によれば等順公の名号碑が全国で最も多く建立されているのは松本周辺の町村で、東筑・南安を含めると五〇基以上になるとい

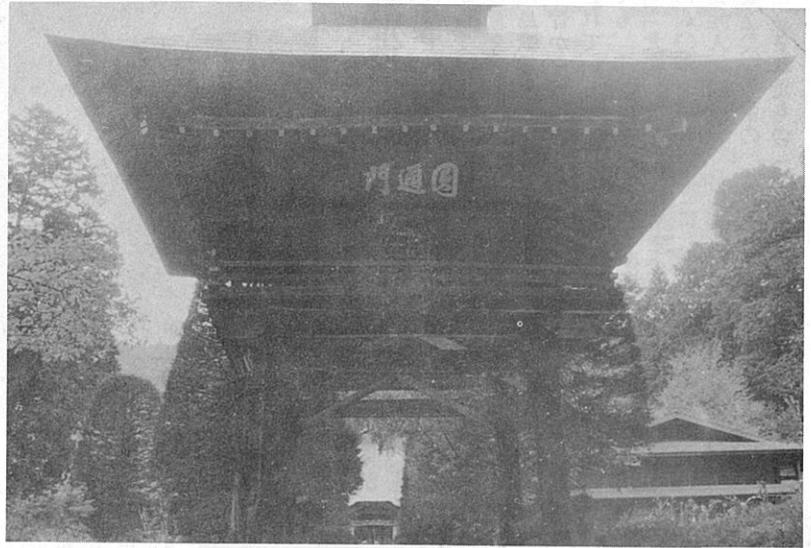
う。山形村には三七基の名号碑があるが、等順公のものとは下大池地区以外の各区に一基ずつ計五基ある。主に文化文政期の造立である。因みに徳本上人のものは六基である。

村の文化財

清水寺の山門

極めて古格に富んだ珍しい石の仁王様の安置された仁王門をくぐり、しばらく上ると木造方形作りの見上げる様な美しい山門がある。

享保十一年(一七二六)、清水寺中興開基直峯禪心庵主の代に建立されたもので、正面に「円通門」の額が見える。



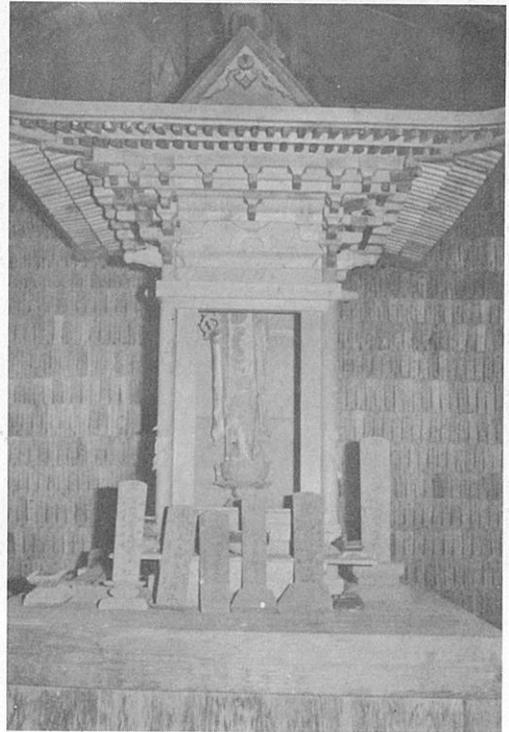
構造は角柱四本を組んだ上に仏堂をのせた様な建築で、階上の仏堂は寄棟造り茅葺だが今はトタン板で覆われている。三方に勾欄をめぐらし、内部に大日如来を安置してあったが、現在は本堂内陣に遷してある。この建物ほもと鐘楼であったのか、古材を専用したと見られる箇所が多い。

地蔵菩薩厨子

木造彫刻の地蔵菩薩を安置したこの美しい厨子は、清水寺の般若堂と名づけられた位牌堂の中央、台上に置かれている。

地蔵菩薩・厨子共に製作年代は不明だが、厨子は扉がこわれ、地蔵菩薩もかなり破損している。

般若堂には、松本をはじめ近在近郷の清水寺の信者たちが、先祖や親子兄弟縁者の冥福を祈って託した位牌が、三方の壁面いっぱいに掲げられている外、床面にも沢山置かれている。江戸時代の文化文政期以後のものが多く、中央に安置されたお地蔵様は、こ



のおびただしい数の位牌の守り本尊なのである。

石造三重塔

塔は元来、寺の伽藍配置の中心として造立されるものだが、石造の層塔はむしろ供養塔として建てられてきた。屋根(笠)の数により三・五・七・九・十三重塔とあり、すべて無限にひろがる意味をもつ奇数の層で作られている。

清水寺の三重塔は享保十五年(一七四〇)に高遠の石工良兵衛忠行の作で、施主は禪心庵主である。第一層の四面は四方仏の如来像、第二層は天部か明王と思われる像が刻まれ、第三層には観音菩薩の住居のある所という「補陀洛山」の四文字が一字ずつ彫ってある。均整のとれた美しい塔である。

